

## 令和元年度 入院・退院 実績

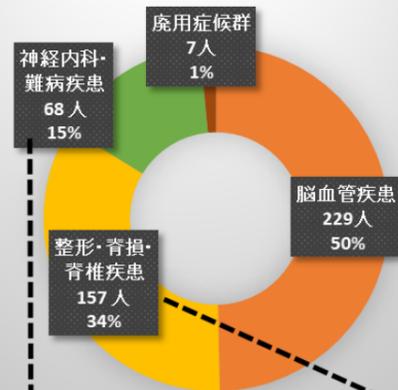
入院患者(H31.4.1-R2.3.31)  
**461人** (延べ34,383人)  
 (1日平均患者人数 **93.9人**)

紹介元医療機関  
 広島市内の医療機関からの入院患者数 **388人**(84.2%)  
 その他33医療機関等の入院患者数 **73人**(15.8%)

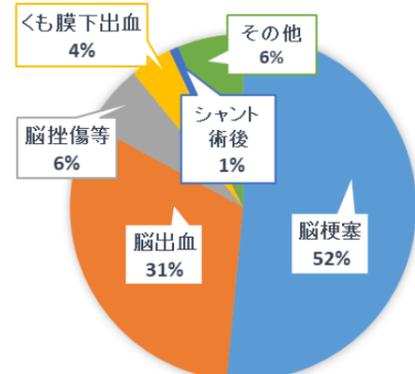
病床利用率 **95.3%**  
 平均在院日数 **75.2日**  
 入院患者1日当たりリハビリ単位数  
**8.5単位**(全国平均6.4単位)  
 実績指数 ※**50.2**(全国平均41.8)

退院先(H31.4.1-R2.3.31) 退院患者 **453人**  
 在宅復帰率 **85.4%** (全国平均78.6%)  
 自宅退院 **342人**(75.5%)  
 自宅退院以外の患者は在宅系の施設 **45人**(9.9%)  
 老人保健施設や医療療養型医療施設等 **66人**(14.6%)

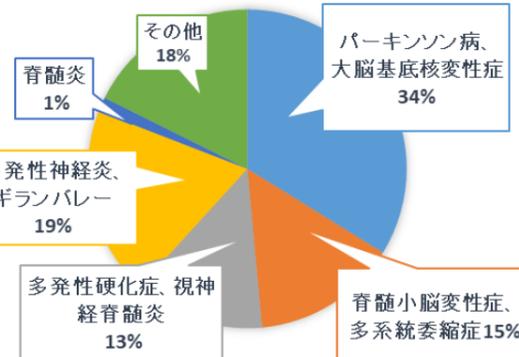
入院患者主病名(令和元年度)



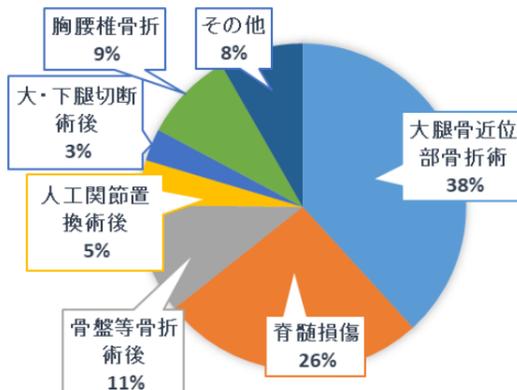
脳血管疾患



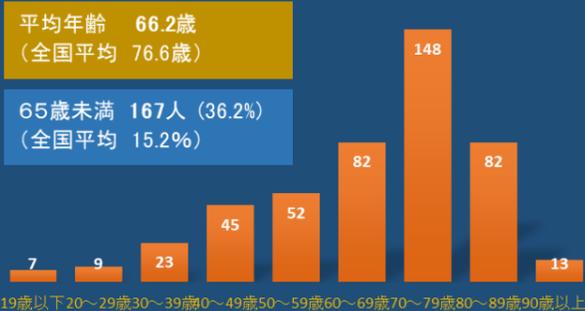
神経内科・難病疾患



整形・脊損・脊椎疾患



入院患者の年齢内訳



当院は、広島市内・市外のさまざまな医療機関からのご紹介で、10代～90代以上の方まで幅広い年齢層の患者さんを受け入れています。  
 リハビリ時間は平均8.5単位と365日リハビリの中で全国平均よりも多くの時間リハビリをしていただいています。患者・家族が希望される生活の場へ移行できるように適切な入院期間で退院できるよう退院支援にも力を入れています。  
 また短期集中リハビリとして神経難病疾患の方の入院リハビリも行っています。

# 地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設



こころ通信  
 いっぽいっぽ  
 Vol.22  
 (令和2年10月発行)

## 病院長 西川 公一郎 ご挨拶



**私たちは、良質で信頼されるリハビリテーションサービスを心をこめて提供します。**

昨年の今頃は予想さえしなかった新型コロナウイルスによりわたしたちの生活は大きく変化しました。

各医療機関のご苦労は大変なものだったと思います。広島地区は小康状態ですが、いつどんな変化が起きるかわかりません。感染対策に多大な労力、負担を費やされていることと思います。医療に関わる皆様の志に敬意を払います。

さて、当院の令和元年度の入院・退院実績を後のページに載せています。年間の入院患者さんは461名、うち広島市内の医療機関から紹介していただいた患者さんが388名、84.2%となります。市外からの入院でも、多くは広島市内在住の方となります。在宅復帰率は85.4%、実際に自宅に退院された方は75.5%と高率となっています。

入院の病名は、半数が脳血管疾患で、他は整形外科や脊椎疾患(外傷)が主となります。当院の特徴は65歳未満の方が36.2%と比較的若年の方が多いことです。現在の医療制度では、高次脳機能障害、失語がある方の機能回復にたいしてのリハビリに制限があるようです。比較的若年で改善が期待できても、医療保険では限界があります。

病院に隣接する自立訓練施設では、医療保険ではなく、障害者総合支援法に基づき、自立して生活していくための訓練を行っています。病院を退院後、自立訓練施設でさらなる訓練を追加するかもおられます。継続した訓練後、多くの方が自立した生活に戻っていかれます。

ある調査では、コロナ緊急事態宣言中は、高齢者の身体活動が約3割減少したとされます。若年者では低下した運動機能はもとよりやすいのですが、高齢者では活動レベルを元に戻すのは簡単ではありません。コロナ禍のため、外出を控えていたために運動機能だけでなく、いろんな活動性が低下した方を多く認めます。当院は回復期病棟のみの病院ですが脳血管疾患等対象とされる疾患以外の患者さんもある程度は入院していただくことが可能です。神経難病の方やStayHomeのために活動性の低下された方もご相談ください。広島市立総合リハビリテーションセンターの理念は「**私たちは、利用者の皆様が住み慣れた地域で生き生きと心豊かな生活ができるよう、良質で信頼されるリハビリテーションサービスを心をこめて提供します。**」です。今後ともよろしくお願ひします。



発行:広島市立リハビリテーション病院 〒731-3168 広島市安佐南区伴南一丁目39番1号  
 TEL(082)848-8001 FAX(082)848-8003 E-mail riha-hosp@hcho.jp

当院では個別訓練だけでなく、さまざまな活動を行っています！

## 摂食嚥下支援チームの活動

摂食嚥下障害がある患者は、誤嚥による誤嚥性肺炎、窒息、低栄養、脱水を起こしやすい問題があります。「食べる楽しみ」を失うことは「生きる意欲」に大きく影響します。口から食べることを諦めないという支援は、患者のQOL(生活の質)を維持・向上する上でとても重要です。

当院では毎週1回、昼食時にチームで患者さんの食事場を観察し、多職種でカンファレンスを行っています。その評価内容をもとに口腔機能管理や支援計画、食事の見直しを行っています。また栄養サポートチームと協働して栄養管理にも携わっています。実際に毎週、患者さんに関わることで、嚥下機能に合った食事形態の調整や訓練においてタイムリーな支援ができています。さらに、病棟と協働し、より個別性をもって、早期に回復できるように支援しています。

### チームメンバー

医師、歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士、栄養士、薬剤師



口から食べることをあきらめない！

## 作業療法での高次脳機能グループ訓練

当院は、回復期リハビリテーション病院として回復期から生活期にわたる支援を行っています。

作業療法部門では、患者同士の相互交流による高次脳機能障害に対する気づきの促し、高次脳機能や生活技能の直接的改善や、生活期のリハビリテーションへの円滑な移行を目的に2018年から高次脳機能グループ練習を開始しています。

当院での高次脳機能グループ練習は、週1回、1時間の頻度で一度に集まる参加者の人数は5～6名程度です。

『セミクローズド』というグループ形式を採用しています。内容としては、

- ・ 高次脳機能に関する基礎知識の勉強会や体験
- ・ 高次脳機能の基盤をなす注意機能改善に向けた練習
- ・ 対象者の目標や課題の共有

を主に行っています。

病気や事故の影響で突然に高次脳機能障害を患うことになった対象者は、現在の状態を把握するために、「過去の自分(病前の状態)」と「現在の自分」とを比較します。しかし、その過程において否認や葛藤といった状況がみられ、障害を目にみえる形で確認しづらい高次脳機能障害者は混乱し、その結果として自己の気づきが十分に得られない状態となります。

高次脳機能グループ練習では、「今の自分」に、「今の他者」という存在が加えられ、それが現在の自分の状態を把握する支えや目安となり、「未来の自分」を考えるきっかけになるのではと考えて取り組んでいます。そして、同時に機能練習や生活技能練習をすすめることで、対象者の生活が良い方向へ向かい始めると考えています。



グループ訓練の様子

### 参加者の声

- ・ 同じ境遇の方の存在に気づく良い機会となった！
- ・ 他の参加者の存在や発言が、自分の状態をみつめる支えとなった！
- ・ 他者のアイデアを知る良い機会となった！



## 自立訓練施設

自立訓練施設では、病気や事故などで身体の障害や高次脳機能障害が残った方、視覚障害のある方に対し、障害者総合支援法に基づき、**自立訓練(機能訓練・生活訓練)サービス**を提供しています。

### どんな訓練を行っているの？

病院で提供している療法士によるマンツーマンのリハビリとは異なりますが、同じような個別の訓練課題をご利用者一人ひとりの目標に合わせて設定し、ご自身で訓練課題に取り組んでいただいています。

訓練課題は、地域生活を始めた後にご自身でも行えるような内容を想定しており、地域に出て行う外出訓練や自宅環境に合わせた家事訓練、復職や就労後の実際の業務内容に近い模擬就労訓練なども行います。

地域生活や就労を始める前には、家屋の状況の確認や職場訪問を行い、ご家族や職場の関係者、関係支援機関等とも連携を図り、よりスムーズに希望する生活が始められるよう支援しています。

他にも同じような障害のある方を対象に、高次脳機能障害改善グループ(以下、高次脳グループ)、集団コミュニケーション、外部講師プログラム、スポーツ&アクティビティといったグループ単位で行う訓練も行っています。

### ある日の訓練の一例

9:20～	朝の会
1コマ目	体力向上訓練
2コマ目	個別課題(プリント)
3コマ目	集団コミュニケーション
4コマ目	入浴

### グループ訓練の紹介

高次脳グループでは、高次脳機能障害のある方を対象に、週4回、各1時間のグループ訓練を実施しています。グループの人数は最大8名程度で、1つのグループのみに参加される方も、複数のグループに参加される方もおられます。

主な訓練内容は次のとおりです。

- ・ 高次脳機能(特に注意力及び情報処理能力)を強化するトレーニング
- ・ 記憶の代償手段となるメモやメモリーノートを使うトレーニング
- ・ いまの生活上の困りごとやその解決策、工夫についてのグループワーク
- ・ 将来の生活や活動参加、復職、就労を具体的にイメージするためのグループワーク
- ・ 1週間の目標確認と振り返り

高次脳グループでは、高次脳機能に関する課題について、同じような悩みや課題のあるメンバーが集まることで、他にも同じように悩んでいる人がいることを知る機会を作ります。そして、ご自身が感じている生活のしにくさは障害が原因であると確認することで、ご自身の障害についての理解を深めることを狙いとしています。その上で、少しでも生活の中の工夫をご自身で考える力を身につけることができよう支援しています。



自立訓練施設では、健康づくり体操や園芸療法、料理教室などの楽しみながら取り組める外部講師プログラムもあります！

お問い合わせ 広島市立自立訓練施設

TEL(082)848-2868 FAX(082)848-2872

ご質問・ご相談・ご見学希望など、お気軽にご相談ください。